

学校五日制——親として大切なことは①

●馬居政幸（静岡大学助教授）

お父さんの勘違い

- ①「コラ、いつまでテレビ見ているのだ。宿題したのか。」
 - ②「あれ、お父さん知らないの、あしたは休みだよ。」
 - ③「あつ、そうだ……、あしたは家庭の日だっけ……アア、昼ごはん、ツクンナキャ……ヤナーネー！」
- これは、今年の四月、新学期になって土曜日が初めて休みになる前日の金曜日の夜、わが家での会話である。
- 夜八時過ぎに帰宅した私が最初に発した言葉が①。それに答えた②は小学校三年の次男。溜め息をつきつつ③を付け加えたのが妻。同様の会話を交わされた読者の家庭も少なからずあるの

ではないでしょうか。

私は、長年の習慣を変えることがいかに大変かを感じました。しかし、それ以上に、親の都合と勉強をしているかどうかでしか判断できない子どもを見る目の高さを、妻とともに反省しました。そして、これが学校週五日制の効用かな、と思いました。

学校が週5日になるためには、誤解や軋轢も含めて、さまざまな変化があると思います。その中で、私は、一人の親として、次のことを最も大事なことで提起したいと思います。

親として、子どもを見直し、関わり方を反省するための機会

では、どのように見直し反省すればよいのでしょうか。ヒントは私の失敗です。勉強中心の見方を変えることです。そして、二日続く休みの中で、子どもがどんな遊びをしているかに目を向けてください。

遊びの大切さ

「よく遊び、よく学べ」ということわざがあります。子どもの成長にとって「遊び」と「学び」は車の両輪のようなものです。でも、学校はどうしても「よく学べ」の方を優先せざるをえません。「遊び」は、あくまで休み時間の問題、授業での勉強疲れを取るためのもの。別の育ちがあるからと勉強と同じように「よく遊び」を奨励する学校は少ないはず。（唯一の例外は小学校生活科、この点は改めて）

しかし、私は、「よく遊び」こそ、一人の自立した人間に育つための不可欠の条件と考えます。理由は、遊びには次の価値があるからです。

一つは総合性の価値。

子どもは遊びの中で自分の持っている力の全てを発揮しているはずで

子どもにとって遊びはさまざまな機会に教えられる身につけた多様な知識や技能を総合して実践的に試す場。家庭

や学校で、それまで学び取った知識を自分の生活の中に知恵として生かすための練習の場が遊びです。

二つは創造力の価値。

子どもは遊びに必要なものであればなんとか工夫して手に入れ、遊びを妨げる問題には必死に努力して解決しようとするはずで。遊びは子どもが新たな力を自ら生み出す場。教科書や教師からでは学べない、一人ひとりの個性や能力に応じた子ども独自の文化を創造する場が遊びです。

三つは楽しさの価値。

これはあえて説明する必要もないでしょう。刻苦勉強や勤勉という言葉が示唆するように、学校の授業は強いて勉める世界。遊びは逆です。自ら進んで行う世界。その理由は楽しいからです。そしてこの楽しさに支えられた総合力と創造力こそ、子どもが自立（自律）するための基礎・基本です。

そこで今回のテーマは自立（自律）。冒頭の妻の溜め息の意味がヒント。



学校五日制——親として大切なことは(2)

●馬居政幸（静岡大学助教授）

妻の嘆きの意味

前回、四人の子どもの父親である私にとつての学校五日制の意味を次のように提示しました。

親として、子どもを見直し、
関わり方を反省するための機会

そして、「よく遊び、よく学べ」という諺の「よく遊び」の部分にこだわりました。一日増える休日を、五日間一生懸命勉強するために休息する日、にしてほしくなかったからです。

二日間の休日を、学校の成績を上げるためではなく、「学校では学ぶことができない力」を身につける日にして欲しかったからです。学校だけが子ども

もの生きる場ではないことに気付いてほしかったからです。

そして、夢中で遊んだ世界が、「一人の人間として生きる」上で必要な力をどれほど豊かに育んでくれたかを、お父さんやお母さん自身の経験の中に思い出してほしかったからです。

そこで今回のテーマの子どもの自立と自律です。

ただ遊ばせるだけで、自立するのでしようか、という疑問を持つお母さんもしらつしやるでしょう。私はそのような方に次のように問い返したいと思っています。

「本当に子どもを、休みの日に、ただ遊ばせるだけ」にすることができでしようか」

前回、私は土曜休日の前日にもらした妻の次の言葉を紹介しました。

「あつ、そうだ……、あしたは家庭の日だつて……アアア、昼ごはん、ツクンナキャ……ヤーネー！」

妻は昼食を自分でつくることを前提に溜め息をもらしたわけです。でも、なぜ妻が昼食をつくらなければならないのでしようか。

自らを律して立つ基礎は

「ただ遊ばせるだけ」というのは、「上げ膳、据膳で遊んでいただく」ということではありません。「一切を子ども自身に任す」という風に私は考えたいと思います。

夢中で遊べばお腹がすきます。自分の判断で遊んだ以上、その結果に対する責任は自分でとるべきです。お母さんではなく遊んだ本人に食べ物を用意させればいいわけです。

場合によって、食事の用意をすることと自分が遊びになつてもいいのはいでしようか。食べることは人間として生きる上で最も大事なことです。それを自分でできることが自立の基礎でなくて何が基礎になるでしようか。

ただ、それを実際に練習することは

なかなか大変です。だから、まず遊びとして始めるわけです。増えた休日をあてるわけです。

同様に、遊んで汚れたものの洗濯も自分でさせるべきです。食とともに衣もまた自立の基礎であるはずで

そんなことをさせたら台所や洗濯機が汚れて後が大変、と思う方も多いでしよう。ならば、時間がかかっても元通りにしてもらえばいいわけです。

自立（自律）とは厳しいものです。それなりにコストがかかるわけです。むしろお母さんが全て準備する方が楽かもしれません。しかし、それをする限り、子どもはいつまでも子どもであり続けなければなりません。

自らを律して自ら立つための力は、
やはり自ら学び取ることによつて
しか自分のものにならない

このことを強調しておきたいと思ひます。



学校五日制——親として大切なことは③

●馬居政幸（静岡大学助教授）

九月十二日のテンヤワンヤ

今年の九月十二日は記念すべき日になりました。「学校週五日制」になって初めての、土曜日が休みになった日だからです。おおげさにいえば、日本教育史上初めて……、といった言葉で年表にのるかもしれません。

この日の前後に、五日制に関係したさまざまな議論やイベントが、新聞、テレビを通じて報道されたことを記憶している方もおられると思います。

読者のみなさんのご家庭ではどうでしたでしょうか。

私の家庭では妻の一言でおしまい。

「たかが月一回休みが増えるだけだなに騒いでんのよ。もう、静岡は始まっていますよ。」

この連載の資料にするために、新聞

を切り抜いている私を横目でみながらの言葉でした。

「さすが、いざとなれば女は強い、男はどうもダメだな。」

と、私は溜め息をつきながら、その二日前の木曜日の出来事を思い出していました。私の職場で次のような論争が生じていたからです。

『ビリヤードを子どもがしてよいか』

問題は、その前日に私の先輩が、小学五年のお子さんが持つて帰ってきたパンフレットを見たことに始まりました。次の土曜日、すなわち十二日に無料や割引きがある施設の一覧がのっているパンフでした。その中に、ボーリング場やカラオケボックスにまじってビリヤードの店の名前があったのです。

その結果、翌日、私の職場である教育学部の社会科学関係の先生方が休憩する場での話題になったわけです。

映画の『ハスラー』やブルバールのイメージがあったのでしょうか。昭和初期のモダンボーイやモダンガールの風

俗を思い出していることからでしょうか。

日頃、教壇で学生を前に難解な論理を説く哲学や経済や歴史の先生が、自分の子どもや孫をビリヤードにつれていくかどうかで大論争している姿を思いうかべてください。男は単純なものです。

でも、こんな光景は、どうも私の職場だけではなかったようです。

巨大なコピー

妻に横目でバカにされながら最初に切り抜いたのは、十二日の朝日新聞朝刊の天声人語でした。話題がビリヤードではなくカラオケボックスに変わっているだけで、論点は私の職場の論争とほとんど同じ。どうも男が考えることは大して違わないなと思いつつ、新聞をめくっていて、突然、次の文字が私の目の中に飛び込んできました。

こどもにも週休二日。

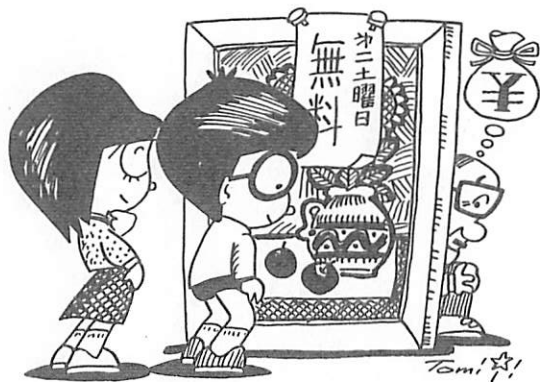
この九文字が新聞一面を使って大きく書かれていたからです。あるデパートの全面広告のコピーでした。

学校週五日制のスタートにあたり、そのデパートが、「わずかながらも勉強漬けから解放される子どもたちのために……プレゼントを考えました」として、休日となる第二土曜日にそのデパートの美術館を、「小中学生、無料の日」にするこの案内でした。もちろん、店内の子ども向けの企画の宣伝も含めての案内ですが。

たかが、月に一回休みが増えるだけで、何を悪のりしているのか。それにしても、ここまで商売に結び付けるエネルギーのなんとすさまじいことか。

これが九文字を見た瞬間、頭に浮かんだことでした。でも、だんだんと、先の大論争も含めて、これはいいことだな、と思うようになりました。

なぜでしょうか。その理由について述べることから次回が始めます。話題は受け皿論議にすすむと思います。



学校五日制——親として大切なことは(4)

●馬居政幸 (静岡大学助教授)

祭りは終わって……!

前回(本誌十一月号)、私は学校五日制が発効した九月十二日をめぐるテンヤワンヤを報告しました。その後、一回休みが入りましたので、二か月たちました。その間、土曜日休みの日はどうでしたでしょうか。

あれほど特集を組んで騒いだマスコミでしたが、二回目以後はほとんど報道されなかったと思います。

新聞を切り抜きながら右往左往している私に、「たかが月一回休みが増えるだけでなに騒いでいるのよ」と、啖呵(たんか)をきった妻の勝利というわけです。

でも、負け惜しみというわけではありませんが、このような変化は私にとっても予想通り。だから、前回、子どもにビリヤードは必要か、という私の

職場の大論争にふれた後に、

『子どもにも週休二日』

という、新聞に載ったデパートの宣伝コピーを紹介し、「これはいいことだな、と思うようになりました。なぜでしょう。その理由について述べることから次回」と結んだのです。ではその理由とは。

学び育つ世界を

子育てを奥さんに任せ、仕事中毒になっっている日本の男どもに、子どもの世界への関心をもたせたことです。

たとえば、デパートのコピー。

現在の子どもの育ちの世界を豊かにするために何が必要か、ということを感じかせてくれたはずだ。

そして美術館のフリーパス。いまでも続いているはず。もちろん、親子がデパートで買い物をしてくれることを願っているもの、と思いますが……。

でも、買うかどうかは本人の問題。子どもの休みに関心に向けたこと自体

夫婦で子どもの世界を

歩いて

休みの日に備えて、子どもの受け皿をどうするかという意見があります。

でも、生活者に最も必要なのは自分で判断できることです。その力を育むには大人は邪魔になるかもしれません。

受け皿は、大人が作るものではなく、子どもと子どもの間に、自ずとできるもの

どこかに親子で行く前に、身近な子どもの生活の場を、デート気分デパートナーと腕を組んで歩いてください。子どもが生活力を学び取る場がどのようになっているかを、若い恋人時代の眼に戻って見てほしいからです。

自分たちがいなくても、しっかり生きていけるかどうか。そのための練習の場を保障すること。これが学校五日制になって、親が子どもにできる最良のプレゼントだと思います。



が重要。たとえ宣伝のためとはいえ、子どもの育ちの世界に、美術館の世界が無料で入ってきたのです。

私の職場の論議もすてたものではありません。それまで研究一筋、抽象的な本の世界にしか興味をもたなかった先生がたが、生身の子どもの世界に目を向けたわけですから。

学校は、教室の中で、教科書を使って、教師が「教える育てる場」です。でも、子どもが自ら立って生きる場は学校の中ではなく外の世界のほうです。学校の外で生きる力を、学校の中だけで身につけることができるでしょうか？

今、子どもたちに最も必要なのは、自分で「学び育つ世界」です。

どんな絵が優れているかは学校でも教えられます。でも絵を見た後、買物をするかどうかは、自分で判断すること。これが自立のステッブです。

ビリヤードも同じ。子どもにふさわしいかどうかは、親子で実際に行って判断すればいいわけです。

HAHA TO SEIKATSU

9月号

目次

表紙絵

村上 豊

今月の扉／杉田 緑 9

グラフィア シリーズ静岡県の民話⑨
ルポ・ふるさとマップ⑦
わんぱくギャラリー⑦
『桜ヶ池のおひつおさめ』 絵／内藤有実子
『万葉の森公園／浜北市』 編集部
『タイヤの向こう側』 原中・田水映子

8 4 1

徳岡 孝夫

SPOT マスコミ②

なぜ英語を教えるのか

12

君和田和一

フレッシュ家庭教育・新時代

登校拒否は、怠けではない

16

特集

子育て どまんなか

お母さんのため息
読者子育て奮戦記

錦織淑子
30 26

- ・私のストレス解消法
- ・もし丸一日自由になる日があったら...
- ・ドキッとした子どもの言葉
- ・生涯学習としてやりたいこと

PART VI

子育て勉強室とびら／池田信一	41
藤の中の少年たち	青春 メルボルン早春
校長先生とつておきの話	紙のランドセル
トビックス学校	友達
現代つ子迷語録	ブルあるよ!!
菊川町立堀之内小	大竹武士
静岡市立森下小	大橋嘉爾
浮田政利	永野正義
	58 48

子育て勉強室

教師のアングル	自分の力で 富士市立広見小	渡辺泰敏	53
なるほどTHE教科書	教育実習生を迎えて 三島市立錦田中	石田恵美子	54
保健室入ケツチ	雨降って地固まる 静岡市立森下小	中山恵美子	55
学校五日制を追う	父親になつて思うこと 浜松市立滝沢小	池端一容	56
	生徒たちのエール 磐田市立城山中	村松量子	59
	理 科	編 集 部	60
	子供の「幸せ」ということ 沼津市立大岡中	斉藤容枝	62
	学校五日制——親として大切なことは(1)	馬居政幸	62

ルポ・学校訪問

神楽クラブ／水窪中学校

編 集 部
38

子どものホンネ

お母さんに言いたい!!

細江町立気賀小学校六年二組
20

海外トピックス

バルセロナでの生活 その2 御殿場市立西中学校

鈴木雄誠
64

お母さんの本

安藤春彦「親が知らない子どもの心」

新村比呂江
88

親と子のページ

とびら給／宮西達也	とびら詩／かみ山えみ (長泉小)
ウォッチング百科	くつきんぐ・あやつ／ティラミス
野草／カワラナデシコ	野鳥／シジュウカラ
自然遊／名犬ラリー	街／ポスト
思春期のこころ	
法月理栄・おととつこいママ	91
木の実	90
伝言板	22・82
本文カット	黒田とみじ25・63 柴田俊12
村松麗子31・75・82 村松勝90	
望月邦昭49	てるしまやすひろ42
金刺雅恵	73
石川計夫	74
柴田匡敏	76
森下睦巳	77
東海郵政局郵務部営業課	78
文集「しずおか」より	79
	80



「食ベ頃」は言葉。しかしボクは、之んりよしたい。気持ちだった。だつて、お母さん。

園にこわさつて、右の絵を見て、あつてこわさを当ててください。正解者の中から20名の方に、千円の図書券をさしあげます。×切は9月25日迄。

ハナカワイス

HAHA TO SEIKATSU

10月号

目次

表紙絵 村上 豊 今月の扉／杉田 緑 9

グラビア シリーズ静岡県の民話⑧ 『池の平のまぼろしの池』 絵／前田守一
ルボ・ふるさとマップ⑧ 『河津七滝めぐり』 編集部
わんぱくギャラリー⑧ 『サッカーの練習』 篠原小・鈴木智恵子

徳岡 孝夫 SPOT マスコミ② 予行演習、必要ですか？ 12

君和田和一 フレッシュ家庭教育・新時代 勉強のしつけ 16

特 集

ボランティア 体 験

ボランティアになるということ
拡大写本活動と私
心の貯金日
娘からの贈りもの
子どもたちの体験

県ボランティア協会事務局次長 鳥羽 茂 24
浜松同交会 三井さち代 30
入浴ボランティア・施設訪問 杉山幸代 32
ボランティアグループ・はるの会 保科はる子 34
サマーショートボランティア報告書より 36

PART VI

子育て勉強室とびら／ごとう 和 41

満中の少年たち ひかりながらかけぬけた
校長先生についておきの話 百ogramのお茶
トビックス学校 授 業
現代つ子迷語録 「校長先生？ 園長先生？」

前・三島市立東小 久保田道弘 46
静岡市立美和中 朝比奈孝充 48
浮田政利 58

子育て勉強室

教師のアンクル
なるほど T・H・E 教科書
保健室スケット
学校五日制を追う

子どもものやる気
みんなが一つになつて
忘れぬ歌忘れぬ生徒
みんなの思いやり見つけた
先生は差別している

松崎町立岩科小 佐藤はま 52
菊川町立河城小 三浦善友 53
清水市立第一中 小田なお美 54
引佐町立奥山小 高林幸子 55
浜北市立龜玉中 石川琢磨 56

国 語
性教育は、学校と家庭から
学校五日制——親として大切なことは(2)

沼津市立愛鷹小 編集 部 59
長橋美奈子 60
馬居政幸 62

子どものホンネ

お父さんに言いたい!! 東伊豆町立熱川小学校二年松組 20

海外トピックス

バルセロナでの生活 その③ 御殿場市立西中学校 鈴木雄誠 64

お母さんの本

遠藤周作『彼の生き方』 新村比呂江 88

親と子のページ

ウオッチング百科
とびら絵／宮西達也 とびら詩／鈴木彩乃(篠原小)
くつきんぐ・おやつ／かぼちゃとさつまいものパウンドケーキ
野草／フジアザミ
野鳥／キジ
自然遊／色探し
街／電信柱
思春期の心理

金刺雅恵 73
石川計夫 74
柴田匡敏 76
森下睦巳 77
78 79 80

中部電力静岡支店広報課 『磐周文集』より

法月理栄・おととつこいママ 91

木の実 90
伝言板 38・82

本文カット 黒田とみじ 25・63 柴田俊12
村松麗子 83 村松勝90
望月邦昭49 てるしまやすひろ42



図とわがワイス 右の絵を見て、あそびわがを当てて下さい。正解者の中から20名の方から、千円の図書券をさしあげます。×切は10月26日(日)まで

あて先▼〒4200 静岡市駿府町1の12 静岡県出版文化会(田と生活)ワイス係

ワイスワイス

目次

表紙絵

村上 豊

今月の扉／杉田 緑 9

グラビア

シリーズ静岡県の民話⑨
ルポ・ふるさとマップ⑨
わんぱくギャラリー⑨

『波小僧』 絵／滝井ノボル
『十里木高原』 堀野市 編集部
『ぞうさん大人気』 有度第一小・宮川剛志

8 4 1

徳岡 孝夫

SPOT マスコミ

髪ふり乱したお母さん

12

君和田和一

フレッシュ家庭教育・新時代 ● でんわと食事のマナー

16

特集

守るぞ!! 私たちの生活環境

今、私たちにできること	静岡星美小学校教諭	池谷加賀里	24
水質調査で環境教育	沼津市立長井崎中学校教諭	西川尚男	26
自然教育のすすめ	サンクチュアリ・ジャパン	馬塚丈司	28
桜並木保護活動	静岡市立豊田中学校教諭	利田康一郎	30
浜松におけるスターウォッチング	浜松市天文協会会長	高橋辰夫	32
きれいな川を次の世代に	静岡県環境保全課		35

PART VI

子育て勉強室とびら／関 暉明 41			
雨の中の少年たち	三味線をならう	静岡市立竜爪中	大竹武士 42
校長先生とつておきの話	書棚の一冊の本	静岡市立伝馬町小	桐竹 弘 46
トビックス学校	子どもの生活リズムと体力	静岡市立伝馬町小	漆畑都夫 48
現代つ子迷語録	いろいろ	浮田政利	58

子育て勉強室

教師のアンクル	さわやかな感動	沼津市立原東小	土屋けい子 52
なるほどT・H・E 教科書	夏の思い出	堀野市立東中	山中敏弘 53
保健室入ケツチ	だから先生つてきらい!	焼津市立焼津南小	八木 均 54
学校五日制を学ぶ	母(一五)の合唱	静岡市立高松中	瀧川弘子 55
	漢字はすごい	浜松市立可美小	山下照乃 56
	算数	沼津市立大岡中	齊藤容枝 59
	出会い	馬居政幸	62

ルポ・学校訪問	明日への教育	静岡県立西部養護学校	編集部 38
子どものホンネ	お母さんに言いたい!!	焼津市立大富小学校四年五組	20
今月の話題(1)	オオバコは強い草か	中山芳明	68
今月の話題(2)	植物とのふれ合いの楽しさ	加茂光廣	82
お母さんの本	吉村 昭『冬の鷹』	新村比呂江	88

親と子のページ

とびら絵／宮西達也	とびら詩／林 智香 (東益津小)	金刺雅恵	74
くつきんぐ・おやつ／りんごのホイールケーキ	野草／ツリガネニンジン	石川計夫	76
野鳥／ムクドリ	自然遊／音あて	柴田匡敏	77
街／道路標識・標示	思春期のこころ	森下睦巳	78
		静岡県警察本部交通規制課	79
		『ふもと』より	80

法月理栄・おとつとつこいママ	91
木の実	90
伝言板	64

本文カット	黒田とみじ 23・63 柴田俊12
村松麗子 65・75 村松勝 90	
望月邦昭 49	てるしまやすひろ 42

HABA TO SEIKATSU

1月号

目次

表紙絵 村上豊 今月の扉／杉田 緑 9

グラビア シリーズ静岡県の民話⑧ 絵／前田守一
ルボ・ふるさとマップ⑧ 「初冬の奥浜名湖畔」／細江町 編集部
わんぱくファミリー⑧ 「デザイン」 都田中・安間源泰 8 4 1

徳岡 孝夫 SPOT マスコミ③ 問答無用、給食を守れ！ 12

君和田和一 フレッシュ家庭教育・新時代 早期教育はよいのでしょうか 16

特集 誌上教育講演会

心の健康を求めて 中津川 完 23

うれしい家庭によい子が育つ 村松雅子 32

PART VI

子育て勉強室とびら／三津山 繁 41

蘭の中の少年たち くんちゃん やすめ② 大竹武士 42

校長先生とつておきの話 臆せず奮らずの生き方に学ぶ 富士宮市立大宮小 佐野治良 46

トビックス学校 あいさつ 静岡市立城山中 増田俊彦 48

現代つ子迷語録 あれつ、トイレのにおい 浮田政利 58

子育て勉強室

教師のアンクル どの子も 子どもは星 富士宮市立東小 井出登代子 52

なるほど THE 教科書 気になる子供の成人病 沼津市立愛鷹小 長橋美奈子 59

保健室スケッチ 学校五日制を追う 学校五日制——親として大切なことは④ 馬居政幸 62

教育実習の頃を振り返って 先生！ 遊びから学ぶ 大東町立佐東小 久保田陽代 55

島田市立六合中 小島治男 54

浜松市立笠井中 金田知久 56

ルボ・学校訪問 教材園で環境教育 清水町立清水小学校 編集部 38

子どものホンネ お父さんに言いたい!! 湖西市立鷺津小学校六年二組 20

私の旅 イギリスの暮らしにみる豊かさについて 外山純子 66

お母さんの本 田辺聖子「乗り換えの多い旅」 新村比呂江 88

新誌名「ふあみりす」に決定!! 〓当選者名発表〓 編集部 64

親と子のページ

とびら絵／宮西達也 とびら詩／米沢知絢（稲取小） 金刺雅恵 73

くつきんぐ・おやつ／お餅のおやつ 野草／フキノトウ 石川計夫 76

野鳥／ユリカモメ 自然遊／協力ゲーム② 柴田匡敏 77

街／マンホール 思春期のいらいら 静岡市役所下水道維持課 森下睦巳 78

【小笠文集】より 80

法月理栄・おっととっこいママ 91

本文カット 黒田とみじ 63 柴田俊 12

村松麗子 75・82 村松勝 24 望月邦昭 49

伝言板 82

てるしまやすひろ 42 内藤有実子 33



1993.1

園とこわさうイス 右の絵を見て、あ
るこわさを当ててください。正解者
の中から20名の方々に、千円の図書券
をさしあげます。〓切は1月25日同。
あて先▼〒420静岡市駿府町1の12
静岡県出版文化会・田中生活サービス係